

ねぎの情勢

平成30年3月上旬
JA全農ちば 園芸販売課

1. 東京都中央卸売市場における過去3ヶ年の入荷量および単価

単位:トン・円/kg

	2月		3月		4月		5月	
	入荷量	単価	入荷量	単価	入荷量	単価	入荷量	単価
平成 27年	4,707	248	4,275	254	3,688	329	3,466	450
平成 28年	4,789	276	4,291	312	3,716	388	3,570	496
平成 29年	4,115	330	4,026	344	3,691	329	3,743	384
3カ年平均	4,537	283	4,197	303	3,698	349	3,593	442

2. 東京都中央市場における最近の入荷量及び単価

単位:トン・円/kg・%

	入荷量	前年比	単価	前年比
1月 下旬	1,478	76.9	361	131.3
1月 合計	4,586	88.3	363	112.1
2月 上旬	1,642	100.4	422	140.6
2月 中旬	1,341	99.8	408	113.9
2月 下旬	936	82.5	466	137.1
2月 合計	3,919	95.3	428	129.6

2月下旬主要産地入荷量

単位:トン・%

	入荷量	前年比
千葉	396	84.2
埼玉	254	86.5
茨城	89	63.0
群馬	76	96.4
中国	55	117.9

開市日 : 本年5日、前年6日

3. これまでの経過と現在の情勢

年明け1月末にかけては関東産地が全般的に降雪に見舞われたことで、一時集荷に走る形で上げ相場に転じました。その後2月には連休明けに播き直し分が出る予想の中、葉物類は連休前から拡販体制へ移行しましたが、ねぎについては降雪の影響を受け数量変動がみられ、連休の数量確保に向けた保合の展開が続きました。内陸の産地ほど低温による影響で葉の確保が難しく、春作他品目の作業等で出荷量は徐々に減少していく見込みの中、品質面と合わせて千葉県産の引き合いは強く、堅調な展開が続きました。2月末から3月頭にかけても、他の野菜が荷動きと売り場の維持に向け売り込み相場となりましたが、ねぎについては他県についても大きく増量が見込めない中、注文を絞る形で相場を上げる結果となりました。

3月5日現在、都中央卸売市場の入荷量は、日量170トン前後(前年170トン前後)、価格は本県産L級で2,800円～(前年2,200円～)と、下押しとなったものの平年を大きく上回る販売が続いています。

4. 主産地の状況

【埼玉】 系統出荷は日量8,000ケース前後。1月は降雪により出荷は停滞し、平年よりも少ない出荷で推移しました。干ばつと強い冷え込みにより品質低下が懸念され、葉の黄変なども圃場によって散見される。出荷量は前年よりもやや少なく、正品率が低い中減少していく事で全体的に品薄感を感じる出回りとなる見込み。

【茨城】 1月下旬の降雪で収穫作業が出来ず出荷量は減少しました。また、寒さも厳しく、葉枯れが散見されました。洋菜類の出荷が始まり、作業が洋菜類へシフトしているため、ねぎの出荷は徐々に減少していく見込み。春ねぎについても干ばつ傾向から土寄せをしても落ちる場面もあり、ボケの発生が見られます。

5. 今後の見通し

3月に入り気温の上昇により、生育遅れのあった葉物も増加傾向となりました。これまでの高値疲れも影響し、入荷が極端に増加していない品目についても商材切り替えの中で、拡販に向けた販売が予想されます。ねぎは徐々に秋冬物が切り上がる中、春ねぎの遅れも見られる事で物量に不足感の有る場面も考えられますが、現在葉物中心に98円売りが増え、売り場の取り合いとなっている中、荷動きを止めない様注意しながらの販売となります。また、気温上昇に伴い品質劣化が懸念されます。今後の品質管理は売り場・相場の維持に直接繋がりますので、生産者の皆様におかれましては、採り遅れのないよう早期出荷の励行をよろしくお願い致します。